

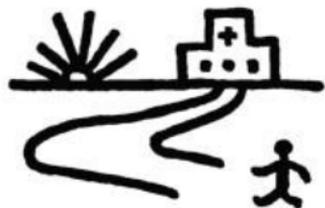
「無病息災」をだれでも望みますが、人生100年時代、まったく病氣と無縁の人は例外的でしょう。日本人男性の3人に2人、女性の2人に1人が、がんになる時代ですから「無がん息災」は少数派です。

「一病息災」という言葉があります。一つ病氣があることで、体に気を配り、健康を保つことを意味します。

がんでも、一つのがんになると、次にできる別のがんは早期に発見される傾向があります。「一がん息災」です。

がん社会 を診る

中川 恵一



イラスト・中村 久美

「一がん息災」の考え方

ます。

とくに、口腔（こうくわう）

や咽頭のがん患者では、食道にもがんができることが多くなっています。学会のガイドラインでも、こうしたがんでは、食道の検査もしておくように推奨されています。

タレントの堀ちえみさんはステージ4の口腔がんで、舌の6割を切除して再建手術も

ん息災」を地で行った例といえるでしょう。

「がんの王様」と呼ばれ、全体の5年生存率は1割にも満たない膵臓（すいぞう）がんは早期発見が難しいのが特徴です。治癒が期待できるステージ1で発見されるのは、1割程度にすぎません。

しかし、東大病院での調査では、肝臓がんの治療後に見つかった膵臓がんの6割がステージ1でした。肝臓がんの再発を確認するためのコンピュータ断層撮影装置（CT）

検査を頻回に行うため、早期の膵臓がんが偶然見つかるためだと思えます。ぼうこうがんに罹患した私も、「一がん息災」をめざします。

（東京大学病院准教授）

度は2〜17%にも上ります。

喫煙、飲酒など、がんのリスクを高める生活習慣を持つ人は、多くの臓器にがんができてやすくなります。遺伝はがんの原因の5%にすぎません

が、特定の遺伝子変異を持つ人に多くのがんができることもあります。ヒトパピローマ

ウイルスは子宮頸（けい）がんだけでなく、扁桃（へんと）腺や肛門にもがんを作り

行うなど、手術は11時間にも及んだと報じられています。

しかし、その後の検査で見つかった食道がんはステージ

1で、内視鏡で簡単に切除ができました。まさに、「一が